

《法人理念》 あたたかい手 やさしい心で つなげよう福祉の輪

《介護福祉課 経営方針》 おもいやりと 笑顔の介護で 地域福祉を支えます



色彩あふれる紅葉の美しさに心弾む季節となりました。今年は新型コロナウイルスの影響により、特別なことが起きており、去年とは違った秋となっています。

6月19日に新型コロナウイルスの感染防止に向けた「緊急事態宣言」が解除されましたが、その後も新規感染者は増加の一途をたどり、感染は拡大している状況です。流行を防ぐためには、ウイルスを体内に侵入させないことや周囲にうつさないようにすることが重要で、一人一人の感染対策の協力が必要です。

「感染しない、うつさない」という意識を持って、行動することがご自身と大切な方を守ることに繋がります。

つきましては、当法人サービス事業所では新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からご利用者様もしくは同居のご家族様が県外の方との接触がある場合、事前に事業所までご連絡をいただきますよう継続してお願い申し上げます。全国の感染状況や接触状況によって、対応が異なり、サービスを制限させて頂くこともあります。

また、接触の相手が接触後、14日以内に発熱などの体調不良の症状が出た時点で事業所までご連絡いただきますようお願い申し上げます。対応を変更する場合は改めてお知らせいたします。

※サービス利用前の体温測定や発熱等の症状観察は今後も継続してお願いいたします。

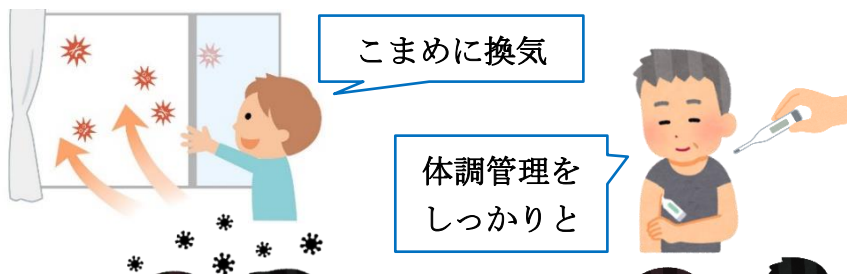
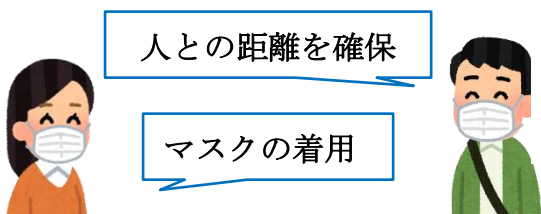
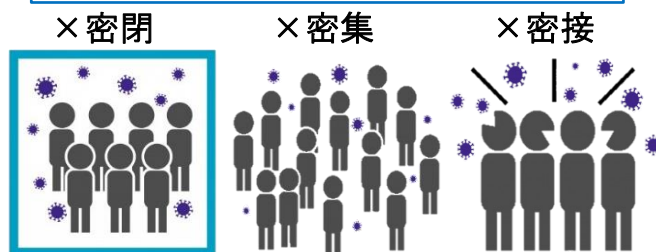
皆様の安全をお守りするため、ご理解とご協力をお願いいたします。



～ 感染対策 ～

手指衛生（手洗いや手指消毒）の徹底

3密（密閉・密集・密接）の回避



【新型コロナウイルスの特徴】

- ・ 潜伏期間は最大14日程度とされています
- ・ 症状は風邪やインフルエンザによく似ていますが、その症状が続く期間がそれらと比べて長い
- ・ 高齢者や基礎疾患（糖尿病、心不全、呼吸器疾患等）のある人は重症化するリスクが高い
- ・ 無症状の人から感染することもある
- ・ 小児～若い人に無症状者が多い



◆飛沫感染

会話、歌唱、くしゃみ、咳をする時、口などから飛び散る細かい水滴のことを飛沫と言い、感染者の飛沫と一緒にウイルスが排出された時、近くにいた人の目・鼻・口の粘膜などにウイルスが体内に入り込み感染が起きます。

- 通常は1～2m以内の至近距離で飛沫を浴びることで感染します。
- 密接した会話や発声は、ウイルスを含んだ飛沫を飛び散らせがちです。WHOは「5分間の会話で1回の咳と同じくらいの飛沫（約3,000個）が飛ぶ」と報告しています。
- 飛沫が直接お互いの目・鼻・口に飛んでしまうことがないように配慮が必要です。
- 飛沫飛散を防止・低減するために会話をする時など、マスク着用は有効です。



◆接触感染

感染者がくしゃみや咳を手で押さえた後、その手で周りの物に触れるとウイルスがつきます。他の方がそれを触るとウイルスが手に付着し、さらにその手でご自身の目・鼻・口を触れることで粘膜からウイルスが体内に入り込み感染が起きます。

- ウイルスのついた手で目・鼻・口を触るのは危険です。接触感染を防ぐために、手指衛生（手洗いや手指消毒）を行います。

共有部分を定期的に消毒



①手洗い 正しい手の洗い方

手洗いの前に 爪は短く切っておきましょう 時計や指輪は外しておきましょう

- 流水でよく手をぬらした後、石けんをつけ、手のひらをよくこすります。
- 手の甲をのばすようにこすります。
- 指先・爪の間を念入りにこすります。
- 指の間を洗います。
- 親指と手のひらをねじり洗います。
- 手首も忘れずに洗います。

※手洗い後、清潔なタオルやペーパータオルでよく拭き取って乾かします。

②咳エチケット 3つの咳エチケット

電車や職場、学校など人が集まる場所でやろう

- マスクを着用する（口・鼻を覆う）
- ティッシュ・ハンカチで口・鼻を覆う
- 袖で口・鼻を覆う



正しいマスクの着用

- 鼻と口の両方を確実に覆う
- ゴムひもを耳にかける
- 隙間がないよう鼻まで覆う

